



木曾川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2023年9月10日(日) 9:30~12:00(晴)

参加者 一般:4名

指導員:4名

テーマ 草原で秋の花とバッタを探そう

虫の声もセミからコオロギに変わり、何となく秋めいてきました。秋の花とバッタに注目して回りました。

昨年はクイモ畑かというほど黄色い花が目立った川原も、今年はおオブタクサとクズに覆われていました。植物の世界も遷移(栄枯盛衰)が進んでいますね。

大野極楽寺公園のフェンスにセンニンソウが絡まり、白い4枚のガク片が花弁のように見える花をつけていました。

頻繁な草刈りで個体数が減っているカワラケツメイも数株が花をつけ、一安心といったところです。先に見たアレチケツメイのキノコ状の蜜腺のとの違いを確認しました。

この公園にはヒガンバナ科の植物3種が見られます。先月、花を咲かせていたキツネノカミソリは既に緑色の実となり、9月3日の下見の時に咲いていたナツズイセンも花茎だけが残っていました。毎年、他所より開花が早いヒガンバナは10数株が花をつけ、秋らしい雰囲気漂わせていました。

もくもくパラダイスの池のほとりのススキの根元に、寄生植物のナンバンギセルがひっそりと咲いていました。

コオロギ類の声が流れる草原を歩くと、ショウリョウバッタやコバネイナゴが飛び立ちますが、思ったより種類は少なく、バッタでは他にマダラバッタが捕獲できたくらいです。よく見ると、後脚に赤と青の部分があり、それが見分けのポイントにもなっています。キリギリスの仲間はウスイロササキリとクビキリギリスを観察できました。(報告:齋竹)



(在来のヌスビトハギの大きな群落を観察)

<その他観察できたもの>

花:アレチヌスビトハギ、メドハギ、ヌスビトハギ、フジカンゾウ、クズ、ブタナ、ブタクサ、ヒメジョオン、イヌコウジュ、ツユクサ、ヤブミョウガ、ツグボ、オオフトバムグラ、メリケンムグラ、ミソハギ、ツリガネニンジン、ミスヒキ、キンミスヒキ、ダイコンソウ、ガガイモ

実:コブシ、アキグミ

虫:ウスバキトンボ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、ハグロトンボ、マユタテアカネ、ショウジョウトンボ、オオカマキリ、アオバハゴロモ、外来アミガサハゴロモ、ツクツクボウシ(声)、アブラゼミ(声)、キタキチョウ、ツマグロヒョウモン、ヒメウラナミジャノメ、ルリタテハ、ギンツバメ、チャバネセセリ、イチモンジセセリ、ダイミョウセセリ、オオスズメバチ、ヤマトシリアゲ、エンマコオロギ(声)、ツツシサセコオロギ(声)、アオマツムシ(声)

鳥:キジバト、ヒヨドリ、メジロ、コゲラ、ハシブトガラス



在来のカワラケツメイもあった



随分早く咲いたヒガンバナ



ススキに寄生したナンバンギセル



マダラバッタ